

日向明神むかふのみやうじんは久世くぜの坤のかたなり、祭る所一坐うかやにして、**■羽葺不合尊**なり。「深き神秘ありとぞ」此所の氏神とす。

例祭は四月中辰の日なり。地主の神は本殿の南にありて白日明神しろひのみと号す、素盞鳴そさのをの孫大歳の神の御子なり。「白山権現しろやまごんげんと団体とす、延喜式神名帳、三代実録等に記は此地主の神なり」石座神降臨の地は鳥井の内道の半にあり。「世に成合塚と称するは非なり」

向日山むかふやま〔当社の山をいふ、又鳥見山とりみともいふ。勝山かつやまと号するは、豊臣秀吉公朝鮮征伐として出陣のとき、参詣まし〜〕此山の名を社人に尋給へば勝山かつやまと答ふ、太閤喜悅ありてこれより名づけ初しとぞ

土佐日記 影とのみたのむかひありて露霜に雨かはりせぬうへのみやしろ 貫 之

夫 木 秋風にさそはれいづる月かげをむかひの山に男鹿なくなり 隆 祐

夫 木 な、そじにむかふの里のふるよもぎうた、くちねとなれるさま哉 俊 実